

Gale Primary Sources と JK Books 「風俗画報」コラボ企画

欧米の図版資料と「風俗画報」～自然災害～

センゲージ ラーニング株式会社 Gale

センゲージ ラーニング株式会社 Gale は、イラストレイテッド・ロンドン・ニュース(Illustrated London News、以下 ILN)に代表される欧米の図版資料のデータベースを多数提供してきました。図版資料は、都市の景観、社会風俗、日用品などの具体的な事物を視覚的に伝えるだけでなく、諷刺画に見られるように、当時の集団的な無意識まで浮かび上がらせる貴重な資料です。

歴史資料としての図版資料は日本でも多数発行されてきましたが、それを代表するのが「風俗画報」です。Gale が提供する図版資料と「風俗画報」を比較することによって、一方の資料だけでは見えてこない部分が見えてくるかもしれません。

本稿では、ILN など欧米の図版資料と「風俗画報」を、特定のテーマでご紹介します。「万博博覧会」をテーマとした 1 回目、「起源・始まり」と題して、19 世紀から 20 世紀初頭に起源をもつモノや現象を取り上げた 2 回目に続き、今回と次回は災害を取り上げます。今回とりあげるのは、自然災害の代表である地震と洪水です。

◆地震

地震の多い日本の記事を探してみます。記事名に”Earthquake”と”Japan”の二つの単語をもつ記事を検索すると、最も古いもので、1856 年 1 月 5 日の記事が見つかります。キャプションには「日本で発生した最新の地震の光景ーディアナ号の沈没」とあります。この記事が掲載される一年以上前の 1854 年 12 月 23 日(嘉永 7 年 11 年 4 日)、マグニチュード 8.4 の大地震が東海地方を襲いました。安政東海地震です。ロシアの提督プチャーチンが、幕府の

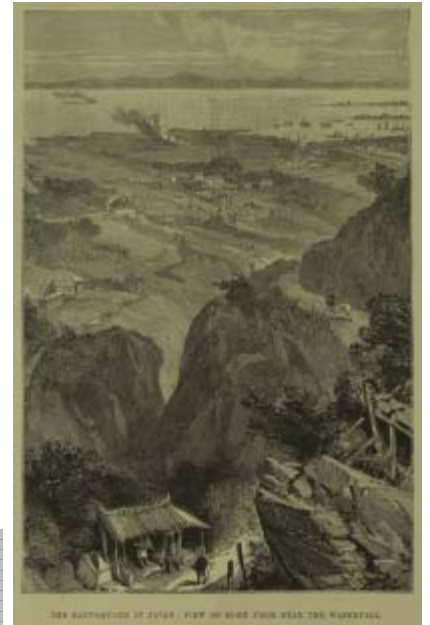


川路聖謨らを相手に下田で通商開始を迫っている最中に大地震が襲いました。ロシアのフリゲート艦ディアナ号は座礁・大破し、その後沈没しました。絵をよく見ると、座礁した船の上に乗組員がおり、海に投げ出された人々もいるのが分かります。記事冒頭では、乗組員の回想を元にしてしていると断わり書きがありますが、海岸の樹木も日本らしくなく、乗組員の回想を元に、想像で描かれたものと思われます。

次に紹介する日本の地震の記事は、1891 年(明治 24 年)10 月 28 日に発生した濃尾地震に関するものです。ILN は、この地震を 11 月 7 日、11 月 21 日、12 月 12 日の三回に分けて報じています。幕末の安政東海地震が地震発生から 1 年以上も後に報道されたことと比較すると、情報の伝達が劇的に早くなっています。しかし、記事の内容をみると、被害状況に関しては死傷者数や家屋の損壊数について公式発表を元に伝えるに止まり、その他は、被害にあった東海から関西一帯の地域が日本でも最も人口が多く、経済的に豊かであること、運河と川が巡る大阪は日本のベニスと呼ばれていることなど、被害にあった地域を紹介する内容となっています。被害状況がほとんど分からない状況にあっては、他に書きようがなかったのでしょうか。ところどころに、東洋学者エドウィン・アーノルドの文章を参照したと思われる記述があります。エドウィン・アーノルドは、日本をはじめアジア各地を訪問

し、幾多の著作を残しました。実は、この記事が掲載された同じ号に、日本の生活や風俗を紹介したアーノルドの新著”Seas and Lands”の紹介記事”Sir Edwin Arnold in Japan”が掲載されています。アーノルドの新著を紹介する記事を掲載しようとしていたところに日本で地震が発生したとの情報が飛び込んできたため、参考にして記事を書いた、ということかも知れません。絵は、神戸市街地を遠望したものです。

“Destructive Earthquake in Japan”
November 7, 1891



2週間後の11月21日の記事では、ロンドンの日本総領事が災害義援金の募集を始めたこと、最大の被災地は岐阜と大垣で、この両市では地震の後に火災に見舞われ、各々1,000人以上の死者が出たこと、近隣の名古屋でも大きな被害を受けたことを続報しています。ところが、2週間前の記事で詳しく紹介した大阪と神戸では大きな被害は報告されていないとし、それにもかかわらず今回も神戸と大阪の絵を1枚ずつ掲載しています。上段の神戸の絵は、鉄道と沿線の家屋を描いたもの、下段の大阪の絵は、戎橋を描いたものです。どちらも地震の被害を受けた様子はなく、日常の情景を描いたものです。このあたりのことを記事では、「それでも、被災地に近いこれらの場所の光景も、読者にとっては興味を引くことになるだろう」と、説明していますが、苦し紛れの弁明としか読めません。

“The Earthquake in Japan” November 21, 1891



12月11日の記事で、ようやく被災地の絵が掲載されます。場所は岐阜です。記事は、詳しい被災状況を報じた横浜の英字紙 Yokohama Gazette の号外を紹介し、これをもとに死傷者数や建物の損壊数を報じています。



“The Earthquake in Japan” December 12, 1891

日本以外の地震に関する記事を幾つか紹介します。

最初に紹介するのは、イタリアはナポリの南東にあるバジリカータ州で 1857 年 12 月に発生した地震です。ILN の特派員が州都ポテンツァでの大きな被害状況を伝えていますが、それよりもっと大きく報じているのは、バジリカータ州の行政長官が地震発生直後に地元の刑務所を訪問したことです。刑務所でも大きな被害を受け、死者も出て、囚人の間に不安と動揺が広がる中で、行政長官として、囚人の脱走を防止するために、あらゆる手段を講じる用意があると述べた、ということが伝えられています。



“The Great Earthquake at Naples”
January 23, 1858

次に紹介するのは、1863 年にフィリピンのマニラを襲った地震です。これも特派員が現地で見撃した情報に基づいた記事です。右図左側の挿絵は、16 世紀に創建されたフィリピンを代表する教会、マニラ大聖堂の崩壊の様子です。晩祷を捧げていたときに地震が襲い、司祭や聖歌隊員の多くが崩落した建物の下敷きになりました。壊れたオルガンのパイプを使って水を与えながら下敷きになった人々の救出を試みましたが、重い石材を除去する術もなく、彼らは命を落としました。右側の挿絵は、マニラ市郊外にあるビノンド教会の塔です。16 世紀に創建された古い教会で、塔の上部だけが崩落しています。



“The Earthquake at Manilla” August 29, 1863

◆洪水

次に洪水に関する記事を見てみましょう。地震は南欧を除けばヨーロッパではほとんど発生しませんが、洪水はしばしば発生します。洪水の記事も比較的多く掲載されています。その中から幾つかご紹介します。

右の絵は、イングランド東部にある沼沢地フェンズの洪水のときの様子を描いた 1862 年のものです。この洪水が原因で、3 万エーカーの耕作地、牧草地、果樹園が水没し、農作物に大きな被害が発生しました。絵は、水を堰き止めようと人々が懸命の作業に当たっているところですが、



“The Flood in the Fens” May 24, 1862

次に紹介するのはフィレンツェのアルノ川の洪水を描いた 1864 年のものです。風景画家のエドワード・ウィリアム・クック (Edward William Cooke) がたまたまフィレンツェを訪問していた時に洪水が発生、そのときのスケッチが ILN に掲載されました。記事では、クックの手紙を引用する形で洪水の様子を伝えています。川の水がトリニタ橋のアーチの上部にまで迫っている様子が分かります。川の表面には木々の枝や幹も見えます。クックの手紙によれば、大雨の影響で川の水嵩が上がり、さらに周囲の丘陵地帯から流れ込んだ水が盆地の市街地に集まり、洪水になりました。川には、フィレンツェ近郊の森やブドウ畑や果樹園から流されてきた木々が浮かんでいます。



“Great Flood of the River Arno at Florence”
December 10, 1864

最後に紹介する絵は、教会の中が浸水している様子を描いたものです。これまでご紹介した絵を見てもわかるように、ILN の絵は地震に襲われた建物や洪水に見舞われた場所を描いたものが多いのですが、この絵は、教会の中が描かれているということもあり、そこにいる人々がクローズアップされている珍しい絵です。場所はイングランド東部の町、リン・レギスのセント・マーガレット教会です。日曜日の礼拝中に、教会の中まで浸水してしまいました。椅子の上に乗って水を避けている人、男性に抱きかかえられている女性、足首の上まで水に浸る中を進む人など、様々です。絵は、リン・レギス在住の L.G.キーンという人物によって描かれたものです。



“Flood in a Church at Lynn” March 24, 1883

掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 データベース営業部
(電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp)までお願い致します。
お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。